

アンモニア水

改訂日：
2024/04/01Spec ID：
900000002248前回改訂日：2021/11/10
初回作成日：2018/04/01

1. 化学品及び会社情報

| | |
|-------------------|--|
| 化学品の名称 | : アンモニア水 |
| 供給者の会社名称、住所及び電話番号 | |
| 供給者の会社名称 | : 株式会社中橋商店 |
| 担当者 | : 営業部 〒760-0036 香川県高松市城東町1丁目2番3号 |
| 電話番号 | : 087-822-3711 |
| FAX番号 | : 087-822-3714 |
| 推奨用途及び使用上の制限 | |
| 推奨用途 | : 一般工業用 |
| 使用上の制限 | : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと |

2. 危険有害性の要約

| | |
|-------------|------------|
| 化学品の GHS 分類 | |
| 爆発物 | : 区分に該当しない |
| 可燃性ガス | : 区分に該当しない |
| エアゾール | : 区分に該当しない |
| 酸化性ガス | : 区分に該当しない |
| 高圧ガス | : 区分に該当しない |
| 引火性液体 | : 分類できない |
| 可燃性固体 | : 区分に該当しない |
| 自己反応性化学品 | : 区分に該当しない |
| 自然発火性液体 | : 区分に該当しない |
| 自然発火性固体 | : 区分に該当しない |
| 自己発熱性化学品 | : 分類できない |
| 水反応可燃性化学品 | : 区分に該当しない |
| 酸化性液体 | : 区分に該当しない |

アンモニア水

改訂日：
2024/04/01Spec ID：
900000002248前回改訂日：2021/11/10
初回作成日：2018/04/01

| | | |
|-------------------|---|------------|
| 酸化性固体 | ： | 区分に該当しない |
| 有機過酸化物 | ： | 区分に該当しない |
| 金属腐食性物質 | ： | 区分 1 |
| 鈍性化爆発物 | ： | 区分に該当しない |
| 急性毒性（経口） | ： | 区分 4 |
| 急性毒性（経皮） | ： | 分類できない |
| 急性毒性（吸入－ガス） | ： | 区分に該当しない |
| 急性毒性（吸入－蒸気） | ： | 分類できない |
| 急性毒性（吸入－粉じん及びミスト） | ： | 分類できない |
| 皮膚腐食性／刺激性 | ： | 区分 1 |
| 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | ： | 区分 1 |
| 呼吸器感作性 | ： | 区分 1 |
| 皮膚感作性 | ： | 分類できない |
| 生殖細胞変異原性 | ： | 分類できない |
| 発がん性 | ： | 分類できない |
| 生殖毒性 | ： | 分類できない |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | ： | 区分 1（呼吸器系） |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | ： | 分類できない |
| 誤えん有害性 | ： | 分類できない |
| 水生環境有害性 短期（急性） | ： | 区分 2 |
| 水生環境有害性 長期（慢性） | ： | 区分に該当しない |
| オゾン層への有害性 | ： | 分類できない |

アンモニア水

改訂日：
2024/04/01Spec ID：
900000002248前回改訂日：2021/11/10
初回作成日：2018/04/01

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

： 危険

危険有害性情報

： H290 金属腐食のおそれ。
H302 飲み込むと有害。
H314 重篤な皮膚の葉傷及び眼の損傷。
H334 吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ。
H370 呼吸器系の障害
H401 水生生物に毒性。

注意書き

： 安全対策：
P234 他の容器に移し替えないこと。
P260 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P273 環境への放出を避けること。
P264 取り扱い後は、顔、手、および露出した皮膚をすべてよく洗うこと。
P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
P284 換気が不適切な場合は呼吸保護具を装着すること。
応急措置：
P390 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。
P310 直ちに医師に連絡すること。
P303 + P361 + P353 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。
P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P304 + P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P342 + P311 呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
P301 + P330 + P331 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
P301 + P312 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。
P308 + P311 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
P363 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

アンモニア水

改訂日：
2024/04/01Spec ID：
90000002248前回改訂日：2021/11/10
初回作成日：2018/04/01

保管：

P405 施錠して保管すること。

P406 耐腐食性/耐腐食性内張りのある容器に保管すること。

廃棄：

P501 国および地方自治体（都道府県市町村）の規則に従って、内容物/容器を適切に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

| 成分名称 | CAS 番号 | 濃度 (%) | 化審法番号 | 安衛法番号 |
|-----------|-----------|--------|---------|--------|
| アンモニア | 7664-41-7 | 25-28 | (1)-391 | 公表化学物質 |
| 水酸化アンモニウム | 1336-21-6 | | (1)-314 | 公表化学物質 |
| 水 | - | 75 以下 | 対象外 | 対象外 |

危険有害成分

| 化学名 | CAS 番号 | 含有量 (% w/w) | 化審法 (ENCS)/安衛法 (ISHL) 番号 |
|-----------|-----------|-------------|--------------------------|
| 水酸化アンモニウム | 1336-21-6 | 25-28 | 1-314 |
| アンモニア | 7664-41-7 | | 1-391 |

4. 応急措置

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
呼吸が困難な時には、酸素吸入を行う。
呼吸が停止した場合には、人工呼吸を施す。
口対口法を用いてはならない。
鼻、口、喉を水でゆすぐ。
体を毛布などで覆い、保温する。
直ちに医師の診察/手当てを受けること。
もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。
物質へのばく露の影響が遅れて出てくることがある。経過観察をする必要がある。

皮膚に付着した場合 : 多量の水で洗うこと。
洗浄しながら、直ちに患部に付着していない汚染された靴と服を取り除く。
直ちに医師の診察/手当てを受けること。
物質へのばく露の影響が遅れて出てくることがある。経過観察をする必要がある。
傷害を生じた皮膚に不必要に触れない。
清潔な木綿布またはガーゼで覆う。

アンモニア水

改訂日：
2024/04/01Spec ID：
90000002248前回改訂日：2021/11/10
初回作成日：2018/04/01

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

- 眼に入った場合 : 目を擦ってはならない。
まぶたを開いた状態に保つ。
できるだけ早く水で洗い始め、数分間注意深く洗う。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師の診察／手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。
吐かせないこと。
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
体を毛布などで覆い、保温する。
直ちに医師の診察／手当てを受けること。
もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。
呼吸が困難な時には、酸素吸入を行う。
呼吸が停止した場合には、人工呼吸を施す。
口対口法を用いてはならない。
- 応急措置をする者の保護 : 救助の際は保護具を着用する（「8. ばく露防止及び保護措置」を参照）。
人工呼吸には、逆流防止バルブのついたポケットマスクや他の適切な医療用呼吸器を用いる；口対口法を用いてはならない。
救助者は、救助の最中、自身の危険にも注意する。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 噴霧水
粉末消火剤
耐アルコール泡
二酸化炭素
乾燥砂
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水
- 特有の危険有害性 : 加熱されると、製品が入ったボンベ／容器が突然爆発したり、飛散するおそれがある。
混触危険物質（「10. 安定性及び反応性」参照）に留意して、適切な冷却手段にて容器を冷却する。
燃焼ガスおよび/または分解ガスには、刺激性、腐食性および/または毒性のガスが含まれるおそれがある。
火災の際は有害なガス（「10. 安定性及び反応性」参照）が発生し、めまいや窒息や健康被害を引き起こすおそれがある。
消火水中に有害物が含まれ、環境や生物に影響を与えることがある。

アンモニア水

改訂日：
2024/04/01Spec ID：
900000002248前回改訂日：2021/11/10
初回作成日：2018/04/01

- 特有の消火方法
- 危険でなければ漏れを止める。
 - 火災がとめられない場合は、火災の拡大・類焼を防止するために噴霧散水により冷却しながら燃焼させたまにする。
 - ボンベ/容器の破裂等の危険が推定される温度を超えそうな場合は、危険な温度に到達する前に、直ちに退避する。
 - 風上から作業する。
 - 安全な場所から消火する。
 - 関係者以外の立ち入りを禁止する。
 - 大規模火災で大量にある場合：区域より退避させ、十分に離れた距離から消火すること。
 - 消火は有効に行える最も遠い距離から、モニター付ノズル等を活用し無人化を図る。
 - 周辺の他の未燃可燃物の防護：可能かつ安全ならば、ボンベ/容器を移動させるか、散水などで冷却する。
 - 外部火災からの製品防護：可能かつ必要がある場合は、製品の入ったボンベ/容器を安全な場所に移動させ、ボンベ/容器または周辺設備を水等で冷却する。
 - 消火に用いた水は堰を作って囲い、環境に配慮した上で廃棄する；物質がちらばらないようにする。
 - 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- 消火を行う者の保護
- 各国、地域で規定された標準の全身保護衣および空気式呼吸器 (SCBA) を着用する。
 - 防護面、ヘルメット、手袋を含む耐炎性防火服を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
- 人体に対する注意事項
 - 換気が不適切な場合は呼吸保護具を装着すること。
 - 適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」参照）を着用して、飛沫等の眼または皮膚への付着や、ミストまたは蒸気の吸入をしないようにする。
 - 緊急処置
 - 風下の人を退避させ、風上から作業する。
 - 関係者以外の立ち入りを禁止する。
 - 周辺環境に、影響（健康被害を含む）を及ぼすおそれがある場合は、周辺の居住者に警告する。
 - 付近の着火源となるものを、直に取り除く。
 - 大きな安全地帯を設定する。
 - 大量漏出の場合、蒸気を抑えるために耐アルコール泡を使用する。
 - 大量の場合、噴霧散水は蒸気濃度低減に有効なことがある。
 - 二次災害の防止策
 - 全ての着火源（熱/火花/裸火/高温表面/静電気放電、等）を取り除く。
 - 適切な消火剤を準備する（「5. 火災時の措置」を参照）。
 - 排水溝、下水溝、地下室、くぼ地あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

アンモニア水

改訂日：
2024/04/01Spec ID：
90000002248前回改訂日：2021/11/10
初回作成日：2018/04/01

環境に対する注意事項 : 環境中に放出しないこと。
漏出物が水系（河川や下水など）に流入して環境への影響を
起こさないように、堤を作って堰止める。
悪臭または刺激臭が強いので、周辺の住民に漏出したことの
通報をするなどの、適切な措置を行う。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 速やかに回収する。
危険でなければ漏れを止める。
漏出物を密閉式の容器にできる限り集める。
広がらないように堰を作り、後で廃棄する。
水系（河川や下水など）へ拡散しないように、速やかに堤を
作って堰止める。
残留液を乾燥した土、砂や不燃性材料で吸収させ、安全な場
所に移す。
少量漏出の場合、専門家の指導で漏洩物を酸で注意深く中和
する。多量の水で洗い流す。
全量を回収する。
防爆型の【電気機器／換気装置／照明機器／機器】を使用す
ること。
全ての着火源（熱/火花/裸火/高温表面/静電気放電、等）を取
り除く。
漏洩または漏出物を回収する場合は、専門家のアドバイスを
求める。
残留分を注意深く集め、安全な場所に移す。
回収作業は、安全取扱い（「7. 取扱い及び保管上の注意」
参照）措置をしたうえで実施すること。
廃棄方法は「13. 廃棄上の注意」を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

: 全ての着火源を取り除く。
静電気対策（アースやボンディング、帯電防止作業靴と作業
服の着用、アースされた導電性床の採用、等）を講じる。
防爆型の【電気機器／換気装置／照明機器／機器】を使用す
ること。
ミストの発生を防止する。
漏洩ばく露に備えて、風上から作業する。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
設備対策を行い、保護具を着用する（「8. ばく露防止及び保護措
置」参照）。
ミスト／蒸気を吸入しないこと。
眼や口に入れない、また皮膚に付けない。
眼、皮膚、衣服への接触を避ける。
休憩場所には、汚染された保護具を持ち込まないこと。
皮膚、粘膜に触れたり、眼に入らない様に適切な保護具を着
用する。

アンモニア水

改訂日：
2024/04/01Spec ID：
90000002248前回改訂日：2021/11/10
初回作成日：2018/04/01

- 可能な限り、使い捨ての保護衣を着用する。
汚染された作業衣は、適切な方法で廃棄または洗浄・再利用すること。
汚染された保護衣は安全な方法で廃棄すること。
- 局所排気，全体換気 : 局所排気および/または全体換気を行う。
- 安全取扱注意事項 : 混触危険物質（「10. 安定性及び反応性」参照）から離しておく。
吸入を避ける。
- 衛生対策 : 使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
密閉系で取り扱えない場合は、屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
本製品を吸入してはならない。
ヒトへのあらゆるばく露を避けること。
皮膚および眼との接触を避けること。
眼や口に入れない、また皮膚に付けない。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
汚染された作業衣は、適切な方法で廃棄または洗浄・再利用すること。
汚染された保護具、作業衣等を処分する際は、周辺環境を汚染することがないように適切な方法を用いること。
取り扱い後は、顔、手、および露出した皮膚をすべてよく洗うこと。
- 保管
- 安全な保管条件 : 耐火設備を備えた場所に保管する。
保管場所には、必要な採光または照明および換気の設定を設ける。
施錠して保管すること。
静電気対策（アースやボンディング、帯電防止作業靴と作業服の着用、アースされた導電性床の採用、等）を講じる。
容器の静電気対策（アースやボンディングされた導電性床の上での保管、等）を講じる。
食品、飲料水、動物の餌から離しておく。
耐腐食性/耐腐食性内張りのある容器に保管すること。
直射日光を避ける。
冷所に保管。
換気の良い場所で保管すること。
容器を密閉しておくこと。
排水管や下水管へのアクセスのない場所で貯蔵する。
「10. 安定性及び反応性」を参照。
- 安全な容器包装材料 : 適した材質：ポリエチレン、ポリプロピレン、ステンレス鋼
適さない材質：情報無し。
国連輸送勧告が指定する容器を使用すること。

アンモニア水

改訂日：
2024/04/01Spec ID：
900000002248前回改訂日：2021/11/10
初回作成日：2018/04/01

8. ばく露防止及び保護措置

作業環境における成分別ばく露限界/許容濃度

| 成分 | CAS 番号 | 指標（ばく露形態） | 管理濃度 / 許容濃度 | 出典 |
|-----------|-----------|-----------|--------------------------------|----------------|
| 水酸化アンモニウム | 1336-21-6 | TWA | 25 ppm (アンモニア) | ACGIH |
| | | STEL | 35 ppm (アンモニア) | ACGIH |
| アンモニア | 7664-41-7 | OEL-M | 25 ppm 17 mg/m ³ | 日本産業衛生学会（許容濃度） |
| | | TWA | 25 ppm (アンモニア) | ACGIH |
| | | STEL | 35 ppm (アンモニア) | ACGIH |

設備対策 : 吸収装置を備えた局所排気装置および/または全体換気装置を使用する。
取扱場所に、手洗い設備、洗身洗眼設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具 : 呼吸用保護具は、リスクアセスメントを実施した上で適切と判断された、使用地域で定められた規格に合致するものを必ず使用する。
緊急時および漏出時の措置では、空気呼吸器あるいは循環式酸素呼吸器 (SCBA) を着用する。
防毒マスク

手の保護具 : 手の保護具は、リスクアセスメントを実施した上で適切と判断された、使用地域で定められた規格に合致するものを必ず使用する。
不浸透性保護手袋

眼の保護具 : 眼の保護具は、リスクアセスメントを実施した上で適切と判断された、使用地域で定められた規格に合致するものを必ず使用する。
安全ゴーグルまたは保護眼鏡と防災面

皮膚及び身体の保護具 : 個人用保護具 (PPE) は、リスクアセスメントを実施した上で適切と判断された、使用地域で定められた規格に合致するものを必ず使用する。
帽子、靴、合羽等を含む適切な不浸透性保護衣を着用する。
全身保護衣（必要に応じてエアライン付を利用する）。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 液体

アンモニア水

改訂日：
2021/11/10Spec ID：
900000002248前回改訂日：2020/12/08
初回作成日：2018/04/01

| | |
|---------------------------|---|
| 色 | : 無色 |
| 臭い | : 刺激臭 |
| 融点／凝固点 | : -58 °C (25%) |
| 沸点又は初留点及び沸騰範囲 | : 38 °C (25%) 沸点 |
| 可燃性 | : データなし |
| 爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界 | |
| 爆発範囲の上限 / 可燃上限値 | : データなし |
| 爆発範囲の下限 / 可燃下限値 | : データなし |
| 引火点 | : 不燃性 |
| 分解温度 | : データなし |
| pH | : 11.6 1N 11.1 0.1N 10.6 0.01N |
| 蒸発速度 | : データなし |
| 自然発火温度 | : 不燃性 |
| 粘度 | |
| 動粘度（動粘性率） | : データなし |
| 溶解度 | |
| 水溶性 | : 混和 |
| 溶媒に対する溶解性 | : データなし |
| n-オクタノール／水分配係数 (log 値) | : log Pow: -2.66 推定値 |
| 蒸気圧 | : 48 kPa (20 °C) (25%) |

アンモニア水

改訂日：
2021/11/10Spec ID：
900000002248前回改訂日：2020/12/08
初回作成日：2018/04/01

| | |
|-------------|----------------------|
| 密度及び/又は相対密度 | |
| 比重 | : 0.9 (25%) |
| 密度 | : データなし |
| 相対ガス密度 | : 0.6 - 1.2 (空気=1.0) |
| 粒子特性 | |
| 粒子サイズ | : データなし |

10. 安定性及び反応性

| | |
|-----------|---|
| 化学的安定性 | : データなし |
| 危険有害反応可能性 | : ミストは、温度によらず空気と爆発性混合物を形成するおそれがある。 強酸化剤 裸火 機械火花 電気火花 溶接火花 高温表面 加熱 摩擦熱 静電気放電 強酸 ハロゲン 重金属 重金属塩 : 火災や爆発のおそれ 次亜塩素酸塩類 過塩素酸塩類 : 熱的衝撃および/または機械的衝撃などで容易に分解する不安定物質を生成するおそれ 酸 : 激しく反応するおそれ 金属 : 可燃性ガスを発生し火災や爆発のおそれ |
| 避けるべき条件 | : 裸火 機械火花 電気火花 溶接火花 加熱 高温表面 静電気放電 |
| 混触危険物質 | : 強酸化剤 強酸 酸 |

アンモニア水

改訂日：
2021/11/10Spec ID：
90000002248前回改訂日：2020/12/08
初回作成日：2018/04/01金属
ハロゲン
次亜塩素酸塩類
過塩素酸塩類
重金属
重金属塩危険有害な分解生成物 : 窒素酸化物
水素

11. 有害性情報

可能性のあるばく露経路の情報 : 経口
吸入
経皮
眼

急性毒性

製品:

急性毒性（経口） : 備考：データなし

急性毒性（吸入） : 備考：データなし

急性毒性（経皮） : 備考：データなし

成分:

水酸化アンモニウム:

急性毒性（経口） : LD50（ラット）：350 mg/kg
標的臓器：利用可能な情報に基づく限り分類できない。急性毒性（吸入） : （ヒト）：方法：疫学情報
標的臓器：気道刺激性
備考：粉じん、ミストおよび煙

アンモニア:

急性毒性（吸入） : LC50（マウス）：4230 ppm
ばく露時間：1 h
標的臓器：呼吸器系
備考：ガスTC（ヒト）：方法：ボランティア試験
標的臓器：気道刺激性
備考：ガス

アンモニア水

改訂日：
2021/11/10Spec ID：
900000002248前回改訂日：2020/12/08
初回作成日：2018/04/01

皮膚腐食性／刺激性

製品：

備考 : データなし

成分：

水酸化アンモニウム：

種 : ウサギ
結果 : 腐食性あり

アンモニア：

種 : ウサギ
結果 : 腐食性あり

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

製品：

備考 : データなし

成分：

水酸化アンモニウム：

結果 : pHに基づく

アンモニア：

結果 : pHに基づく

呼吸器感作性又は皮膚感作性

製品：試験タイプ : 呼吸器感作性
備考 : データなし製品タイプ : 皮膚感作性
備考 : データなし成分：

アンモニア：

試験タイプ : 呼吸器感作性
種 : ヒト
方法 : 疫学情報
結果 : 感作性あり

アンモニア水

改訂日：
2021/11/10Spec ID：
900000002248前回改訂日：2020/12/08
初回作成日：2018/04/01

生殖細胞変異原性

製品:

in vitro での遺伝毒性 : 備考: データなし

in vivo での遺伝毒性 : 備考: データなし

成分:

水酸化アンモニウム:

in vitro での遺伝毒性 : 試験タイプ: Ames 試験
結果: 陰性試験タイプ: 染色体異常試験
テストシステム: チャイニーズハムスター細胞
結果: 陽性

アンモニア:

in vitro での遺伝毒性 : 試験タイプ: Ames 試験
テストシステム: ネズミチフス菌および大腸菌
結果: 陰性

発がん性

製品:

備考 : データなし

生殖毒性

製品:

妊娠に対する影響 : 備考: データなし

胎児の発育への影響 : 備考: データなし

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

急性毒性 (「11. 有害性情報」) を参照

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

製品:

備考 : データなし

成分:

アンモニア:

種 : ヒト
投与経路 : 吸入

アンモニア水

改訂日：
2021/11/10Spec ID：
900000002248前回改訂日：2020/12/08
初回作成日：2018/04/01方法 : ボランティア試験
標的臓器 : 呼吸器系誤えん有害性
データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

製品：

魚毒性 : 備考：データなし

ミジンコ等の水生無脊椎動物に
対する毒性 : 備考：データなし

藻類に対する毒性 : 備考：データなし

魚毒性（慢性毒性） : 備考：データなし

ミジンコ等の水生無脊椎動物に
対する毒性（慢性毒性） : 備考：データなし

成分：

水酸化アンモニウム：

魚毒性 : LC50（コイ）：14.2 - 224 mg/l
ばく露時間：48 hrsミジンコ等の水生無脊椎動物に
対する毒性 : LC50（アミ）：2.81 - 98.9 mg/l
ばく露時間：96 hrs

LC50（ミジンコ）：66.2 mg/l

ばく露時間：48 hrs

備考：本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。

藻類／水生生物に対する毒性 : EC50（緑藻）：6,800 mg/l
ばく露時間：18 Days
備考：本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。ミジンコ等の水生無脊椎動物
に対する毒性（慢性毒性） : NOEC（アミ）：3.47 mg/l

アンモニア：

魚毒性 : LC50（魚類）：6.9 - 175 mg/l

アンモニア水

改訂日：
2021/11/10Spec ID：
900000002248前回改訂日：2020/12/08
初回作成日：2018/04/01

備考：本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 : EC50 (ミジンコ): 21.8 mg/l
ばく露時間: 48 h
備考：本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。

藻類に対する毒性 : EC50 (緑藻): 1,300 mg/l
ばく露時間: 5 Days
備考：本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。

魚毒性 (慢性毒性) : NOEC (魚類): 11 mg/l
備考：本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (慢性毒性) : NOEC (ミジンコ): 3.1 mg/l
備考：本情報は、類似する物質から得られたデータに基づく。

残留性・分解性

製品:

生分解性 : 備考：データなし

成分:

水酸化アンモニウム:

生分解性 : 結果：急速分解性あり

生体蓄積性

製品:

生体蓄積性 : 備考：データなし

成分:

水酸化アンモニウム:

生体蓄積性 : 備考：生物蓄積の可能性は低い。

土壌中の移動性

データなし

オゾン層への有害性

オゾン層破壊係数 : 国際規制：UNEP - オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書のためのハンドブック
備考：リストに掲載なし

アンモニア水

改訂日：
2021/11/10Spec ID：
900000002248前回改訂日：2020/12/08
初回作成日：2018/04/01他の有害影響
データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

国および地方自治体（都道府県市町村）の規則に従って、内
容物/容器を適切に廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送 (UNRTDG)

国連番号 (UN number) : UN 2672
国連輸送名 (Proper ship-
ping name) : AMMONIA SOLUTION国連分類 (Class) : 8
容器等級 (Packing group) : III
ラベル (Labels) : 8

航空輸送 (IATA-DGR)

UN/ID 番号 (UN/ID number) : UN 2672
国連輸送名 (Proper ship-
ping name) : Ammonia solution国連分類 (Class) : 8
容器等級 (Packing group) : III
ラベル (Labels) : Corrosive
梱包指示 (貨物機) (Pack-
ing instruction (cargo
aircraft)) : 856梱包指示 (旅客機) (Pack-
ing instruction (passenger
aircraft)) : 852

海上輸送 (IMDG-Code)

国連番号 (UN number) : UN 2672
国連輸送名 (Proper ship-
ping name) : AMMONIA SOLUTION国連分類 (Class) : 8
容器等級 (Packing group) : III
ラベル (Labels) : 8
EmS コード (EmS Code) : F-A, S-B
海洋汚染物質 (該当・非該当)
(Marine pollutant) : 非該当

アンモニア水

改訂日：
2021/11/10Spec ID：
900000002248前回改訂日：2020/12/08
初回作成日：2018/04/01

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質（該当・非該当）

供給された状態の製品には非該当。

緊急時応急措置指針番号

154

国内規制

国の特定の法規制は、項目 15 を参照する。

特別の安全対策

備考

： 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。
転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確
実にを行う。
車輦、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、
緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

ここに提供されている輸送分類は、情報の目的だけのためで、本安全データシートの中で解説されるように開梱された材料の特性のみに基づいています。輸送分類は、交通手段、パッケージサイズと地域や地方の規則の変更により、変更される可能性があります。

15. 適用法令

関連法規

消防法

危険物、指定可燃物に該当しない。

化審法

特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

労働安全衛生法

製造等が禁止される有害物

非該当

製造の許可を受けるべき有害物

非該当

健康障害防止指針公表物質

非該当

変異原性の認められた化学物質（既存化学物質）

非該当

変異原性の認められた化学物質（新規届出化学物質）

非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第57条の2（施行令別表第9）*1

| 化学名 | 含有量(%) | 備考 |
|-------|----------|----|
| アンモニア | >=25-<28 | - |

*1 2025年 4月 1日以降、法第57条の2（規則別表第2）

アンモニア水

 改訂日：
2021/11/10

 Spec ID：
900000002248

 前回改訂日：2020/12/08
初回作成日：2018/04/01

名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第 57 条（施行令別表第9）*1

| 化学名 | 備考 |
|-------|----|
| アンモニア | - |

*1 2025年 4月 1日以降、法第57条（規則別表第2）

特定化学物質障害予防規則 - 第三類物質

| 化学名 |
|-------|
| アンモニア |

鉛中毒予防規則

非該当

四アルキル鉛中毒予防規則

非該当

有機溶剤中毒予防規則

非該当

労働安全衛生法施行令 - 別表第一（危険物）

非該当

毒物及び劇物取締法

劇物

| 化学名 | 政令番号 |
|--------------|------|
| アンモニアを含有する製剤 | 8 |

化学物質排出把握管理促進法

非該当

高圧ガス保安法

非該当

火薬類取締法

非該当

船舶安全法

危規則第 2,3 条危険物告示別表第 1: 腐食性物質

航空法

施行規則第 194 条危険物告示別表第 1: 腐食性物質

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

ばら積み輸送 : 有害液体物質(Y 類)

個品輸送 : 海洋汚染物質には該当しない

水質汚濁防止法

有害物質（法第 2 条、施行令第 2 条、排出基準を定める省令第 1 条）

大気汚染防止法

特定物質（第十七条、第一項）

アンモニア水

改訂日：
2021/11/10

Spec ID：
900000002248

前回改訂日：2020/12/08
初回作成日：2018/04/01

悪臭防止法

特定悪臭物質（法第二条第一項、施行令第一条）「アンモニア」

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

産業廃棄物

16. その他の情報

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報にもとづき、当該製品の安全な取り扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄、漏洩時の処理等のために作成されたものですが、記載されている情報はいかなる保証をするものではなく、品質を特定するものでもありません。また、この SDS のデータはここで指定された物質についてのみのものであり、指定されていない工程での使用や、指定されていない材料と組み合わせた使用に関しては有効ではありません。